

栃木県教育委員会定例会会議録

令和3(2021)年11月2日(火)、栃木県教育委員会定例会を栃木県庁南別館内教育委員室に招集した。

1 出席者(教育長及び委員)は次のとおりである。

1 番(教育長)	荒川	政利
2 番	工藤	敬子
3 番	金子	達也
4 番	陣内	雄次
5 番	板橋	信行(欠席)
6 番	鈴木	純美子

2 議事に参与した職員は次のとおりである。

教育次長	中谷	一彦
教育次長	中村	千浩
総合教育センター所長	大島	政春
総務課長	阿久津	守男
学校安全課長	佐瀬	学
特別支援教育室長	平井	謙司
スポーツ振興課長	大牧	稔
競技力向上対策室長	角田	正史
総務主幹	小平	知久

3 午前9時30分、教育長及び委員4名が出席しており、委員会は成立したので、教育長は定例会を開催する旨を告げた。

4 教育長は、本日の会議録署名委員に6番鈴木委員を指名した。

5 教育長は、本日の議案等のうち、第1号議案から第4号議案については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき、会議を非公開で行いたい旨を諮ったところ、全出席者の賛成により非公開とすることに決定した。

6 教育長は、報告を受ける旨を告げた。

7 報告

(1) 令和3年度地方教育行政功労者表彰(文部科学大臣表彰)について

教育長は、事務局からの説明は割愛する旨を告げた。

この報告に関して、出席者から意見等はなかった。

(2) 令和3(2021)年度中学校等生徒の進路希望調査(第1回)の結果について

教育長から説明を求められ、総合教育センター所長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ 定時制・通信制への進学希望が増えているようだが、コロナの影響もあるのか。

[事務局]

- ・ コロナの影響については分析しかねるが、「その他」の割合が減少し、進学希望者の特に私立定時制・通信制が増加している。
あくまでも短絡的な推測だが、今まで進路を決めかねていた子どもたちが、進学を考えたときに、集団の中での困難さなどが低減される通信制を希望するようになったということも考えられる。

[委員]

- ・ 倍率の高い県立高校を受検して入学できなかった子たちの進路はどのようになっているか。
また、毎年お話ししているが、学悠館高校の評価が高いので、県内に何か所か同じような学校があればよいと思う。

[事務局]

- ・ これまでの経験上の話だが、県立高校を受検するほとんどの生徒が私立高校も併願しているので、希望していた県立高校が不合格になった場合は、私立高校に入学すると思う。
- ・ 学悠館高校については、フレックス特別選抜の高倍率をはじめ、入学後の学校の対応も手厚いため、非常に評判がよく、それが中学校にも浸透しているのだと思う。
現在、高校再編関係では、「県立高校の在り方検討会議」の中で、学校の特色なども踏まえて、今後の方向性などについて、有識者をはじめ多くの方々から意見をいただいているところであるため、さきほどのご意見も貴重なご意見として承りたい。

- (3) 令和3(2021)年度学校保健及び学校安全表彰(文部科学大臣表彰)、養護教諭制度80周年記念学校保健功労者文部科学大臣表彰について
教育長は、事務局からの説明は割愛する旨を告げた。
この報告に関して、出席者から意見等はなかった。
- (4) 栃木特別支援学校及び那須特別支援学校の寄宿舎の閉舎について
教育長から説明を求められ、特別支援教育室長が説明した。
この報告に関して、出席者から意見等はなかった。
- (5) 令和3(2021)年度栃木県中学校・高等学校運動部に関する調査結果について
教育長から説明を求められ、スポーツ振興課長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ 人数の少ない部活動がある学校では、合同チーム編成が増え、単体での活動が制限されているのではないかと思うが、県として状況を把握しているか、また、把握しているのであれば、今後の部活動の運営スタイルも検討していかなければならないと思うので、県で何か情報があれば教えてほしい。

[事務局]

- ・ 合同チームの数は即答できないが、県としても、子どもたちのスポーツ活動を支える環境整備に取り組んでいるところである。中体連、高体連等には、合同チームで活動する場合には、安全面に十分注意をして、できる限り合同で活動できるような機会を確保できるよう指導している。

[教育長]

- ・ 合同チームは、1校で1チームを組める人数がいる場合は認めていない。やりたいスポーツがあるが、その学校では人数が少なくできないという場合でも、子どもがやりたいスポーツをできるようにするというのが基本的な考え方である。そのための環境整備、あるいは考え方の整理は、国はもとより、県でもしっかりと検討していく必要がある。

[委員]

- ・ 部活動の環境をどのように整えて維持するかというときに、コロナの影響により学校での活動が制限されて、部活動をできる条件が、校内のみの活動などとなった場合に、合同チームを編成するような人数しかない校内の活動では、練習メニューが限られ、実践練習もできないなど、活動が狭まって、大会や練習に向けた子どもたちの気持ちを維持するのが非常に難しいのではないかと思う。
そのようなことも含めて、子どもの活動する場所をどのようにするかを見直しして、新しい形にバージョンアップしていただければと思う。

[事務局]

- ・ コロナの影響によって、子どもたちの部活動に制限がある。県としては、警戒度レベルに応じて、どのような活動まで認めるかというガイドラインを作成し、指導している。また、中学校については、地区ごとに活動の範囲を決めているので、地区ごとに細かく状況に合わせた活動をするよう指導している。

[教育長]

- ・ 補足になるが、今の警戒度レベルでは、校外における試合も含め、対外試合を認めている。小中学校のスポーツ活動については、基本的には各市町教育委員会が判断するので、県では、警戒度レベルが切り替わるごとに、各市町教育委員会に「この警戒度レベルの場合、県立学校はこのような対応とするので、この基準を参考に対応をお願いしたい」という依頼を通知している。

[委員]

- ・ 高校の競技別部員数の上位にダンスが入っている。私は大学のダンスサークルの顧問をしていたが、20数年前のダンス熱はそれほど高いものではなかった。今回の東京オリンピックでもスケートボードが正式競技になるなど、スポーツは時代に応じて変わっていく。

スポーツは教育的側面がたくさんあるので、子どもたちがやりたいというスポーツは、それができる環境をつくってほしい。そういう環境をつくっていくことが栃木県の特徴にもなるのではないかと思うので、配慮いただければと思う。意見である。

(6) WEB サイト「とちぎっ子体力雷ジグひろば」の開設について

教育長から説明を求められ、スポーツ振興課長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ コロナ禍を経験したことにより、日々の体力づくりや健康管理の必要性に対して、国民の意識が高まった。今の子どもたちは、100歳を超えて生きていくと言われており、小さいころからの運動習慣は、その先の人生の健康の基礎を作っていくことから、これまで以上に重点をおいていくべきだと考えている。そうした意味では、とてもよいものができたと思う。こうしたツールを活用して、親子のコミュニケーションにつなげていただき、そして、ICT環境の整っているなかで、こうしたものを活用していただけることを願っている。意見である。

[委員]

- ・ こちらのサイトは小学生が対象ということでよいか。

[事務局]

- ・ 基本的には小学生を中心としているが、「体力診断ゾーン」の県平均値との比較や記録の登録や、「体力アップ動画ゾーン」のレベル別の動画については、小学生以外でも活用できるので、他の年代でも積極的に活用してほしい。

8 教育長は、審議に移る旨を告げた。

9 教育長は、第1号議案から第4号議案について、先の決定のとおり、会議を非公開で審議する旨を告げた。

10 第1号議案 栃木県立博物館評議員会委員の任命について
第1号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。

- 11 第2号議案 県有財産の取得について（高等学校等教育用タブレット端末）
第2号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。
- 12 第3号議案 栃木県いじめ問題対策委員会委員の任命について
第3号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。
- 13 第4号議案 栃木県体育施設設置、管理及び使用料条例の一部改正について
第4号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。
- 14 教育長は、以上で本日の会議を終了することを告げ、午前10時26分、閉会した。